2021年度シラバス

科目名:障害児心理学特論Ⅰ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
関係発達論の立場から、障碍児心理学についての理解を深める。本授業で障碍は「生きづらさ」と考え、発達障碍や精神障碍、トランスジェンダー、聴覚障碍、慢性疾患など多様である。『接面の人間学』に収録されている論考を輪読し、障碍児心理学に対する深い理解を目指す。特に接面の観点の必要性について共に考えていく中で、受講生の研究の一助となるようにしたい。

授業の到達目標
①障碍についての考え方（障碍観）を深める、②障碍のある人と私たちが共に生きることについての考えを深める、これら２点を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障碍児・者や支援を必要とする人たちなどとかかわった経験がある方が、本講義の理解がより拡がると考えられる。もちろん、これまであまりかかわったことがない方も歓迎するが、授業期間等に職場やボランティア等でかかわってみることをお願いしたい。

評価方法
論文講読の発表（50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。

教科書	参考図書
接面の人間学（鯨岡峻・大倉得史編，ミネルヴァ書房）	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohakagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	「共に生きる」とはどういうことか
03	保育の場に見る一人の発達障碍のある子どもの生きる姿
04	接面から考える特別支援教育のかたち
05	保育者養成校での＜教える―教えられる＞という関係性の形成
06	関係発達論的な音楽療法における音・音楽と接面
07	接面が立ち上がるとき―「特定」の私と子どもの関わりから―
08	「接面」と集団のダイナミズム―居場所型精神科デイケアの治療
09	トランスジェンダー当事者同士の「語り合い」によって生まれた接面
10	盲ろう者とコミュニケーション
11	慢性の病いとともに生きる
12	生と死の境界を共に生きる
13	接面とはどういう概念なのか―家族の回想録から―
14	関係発達論から考える障碍児心理学のあり方
15	まとめ
16	

2021年度シラバス

科目名:障害児心理学特論Ⅱ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
関係発達障碍論の立場から、発達障碍に対する理解を深める。『発達障碍のある人と共に「育ち合う」』に収録されている論考を輪読し、発達障碍に対する深い理解を目指す。特に「あなた」と「わたし」との関係から「共に育ち合う」関係および当事者研究について、共に考えていく中で、受講生の研究の一助となるようにしたい。

授業の到達目標
①発達障碍についての考え方（障碍観・発達観）を深める、②発達障碍のある人と私たちが共に育ち合うことについて考えを深める、③発達障碍と当事者研究のあり方について考えを深める、これら３点を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
発達障碍等の障碍児・者や、支援を必要とする人たちとかかわった経験がある方が、本講義の理解がより拡がると考えられる。もちろん、これまであまりかかわったことがない方も歓迎するが、授業期間等に職場やボランティア等でかかわってみることをお願いしたい。

評価方法
論文講読の発表（50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。

教科書	参考図書
発達障碍のある人と共に育ち合う「あなた」と「私」の生涯発達と当事者の視点（大倉得史・勝浦眞仁編，金芳堂）	随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	発達障碍のある人と共に「育ち合う」関係へ―関係発達障碍論―
03	発達障碍支援のあり方を問い直す
04	発達相談におけるアセスメントと支援
05	木漏れ日―「私」と「私たち」が紡ぐ暮らし
06	療育の場における支援
07	小・中学校における支援
08	特別支援学校における支援
09	高等教育段階での支援
10	成人期以降の支援
11	身体とつなぐ　仲間とつなぐ　－自閉スペクトラム当事者の視点から―
12	まとめ①　発達障碍をいかに理解するか
13	まとめ②　発達障碍のある人と私たちが共に育ち合うとは
14	まとめ③　発達障碍と当事者研究
15	まとめ　発達障碍研究を通して、自身の研究のあり方を考える
16	

科目名:発達心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育・教育現場で接していく子どもたちは、教科書の子どもたちと同じでしょうか。この授業では、発達の理論を肌感覚を通して再考していくこと、最新の発達心理学のトピックを共有することを中心にしていきます。授業方法としては、文献を輪読すること、プレゼンすること、ディスカッションすることを行います。授業計画で示す内容は、受講者の関心により変更することがあります。

授業の到達目標
1) 既存の発達理論を深く理解することができる
2) 最新のトピックについて知識を得ることができる
3) 自身の発達観・子ども観を言語化することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
輪読する資料は事前に読み、疑問点を整理しておく（準備学修）。
授業内でのディスカッションを再度、自分の言葉で整理する（事後学修）。

評価方法
ディスカッション（50%）、プレゼンテーション（50%）などを総合的に評価する。
日常的な授業への参加態度、自主的・主体的・協力的な学習への取り組みを重視します。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育・教育の慣れ親しんだ景色に対し、疑問をもつ姿勢を大切にしましょう。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	それぞれの子ども観
03	発達の理論：エリクソン
04	発達の理論：ピアジェ
05	子どもの自己肯定感
06	子どもの道徳性
07	外見の違いをもって生まれるということ
08	外国につながりのある子ども
09	子どもと対峙する大人の育ち
10	家族会話
11	大人を支えるネットワーク
12	父親の役割
13	病気があること
14	障害があること 障害があること
15	全体のまとめ
16	なし

2021年度シラバス

科目名:発達心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特論Ⅱでは最新の知見を学ぶのではなく、自身で作り上げる、研究をしていくことの練習をしていきます。発達心理学的な問いに対し、どのような方法論で問いに応じていくのか、実際にデータを取得することによって解決していきます。近年は、再現可能性が心理学分野でも問題になっていますので、古典的な教科書的なことも追試していくことがあるかもしれません。

授業の到達目標
1) 発達心理学の研究法について理解することができる
2) 問い（目的）に対して適切な方法論を選択することができる
3) 妥当性や信頼性、研究の倫理についても理解することができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
現場での子どもの言動に対する問いを列挙しておく（準備学修）。
統計学的検定については何度も復習をする（事後学修）。

評価方法
ディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）を総合的に評価する。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究と実践を往復しながら、それぞれの答えを見つけましょう。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	今日的課題
03	発達心理学の研究法
04	自然観察：テーマ決め、準備
05	自然観察：体験
06	自然観察：分析、考察
07	実験的観察：テーマ決め、準備
08	実験観察：体験
09	実験観察：分析、考察
10	事例検討１:生活場面
11	事例検討２：遊び場面
12	発達検査１：K式
13	発達検査２：WPPSI
14	発達検査３：WISC
15	全体のまとめ
16	なし

科目名:乳幼児心理学特論Ⅰ	担当者:布施 佐代子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
0歳児から5歳児までの乳幼児の一般的な心理発達の過程とそのしくみについて、具体的な保育実践事例を中心としたテキストを読み込むことを通して学び直していきます。人間の一生の発達を見通しながら現実の子どもの姿をどうとらえるかを考え、とくに遊びを中心に幼児期の保育のありかた、遊びと学びの関係等についてディスカッションしながら理解を深めます。テキスト講読の際は、持ち回りでリポーターをしていただき進めます。

授業の到達目標
１．乳幼児期の心理発達について、一般的な姿を学び直した上で、保育現場の実際の子どもを見つめ直し、理解を　深めることができる。２．生涯発達の視点から乳幼児の発達を的確にとらえ、保育・教育の中での遊びの意義を深く理解し、具体的な方法・内容と関わらせながら考えていくことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
発達の理論的な学習と実践とを結びつけて理解を深めることを大切にしていきますので、授業の前後の学修もしっかり行うよう努めてください。準備学修では、事前に配布された論文や資料、テキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておいてください。事後学修では、授業で学習したことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしましょう。

評価方法
試験課題レポート　６0%、授業への取り組み状況・参加態度　４0%で総合的に評価します。

教科書	参考図書
今井和子『遊びこそ豊かな学び』ひとなる書房	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
乳幼児の発達について何度でも学び直す気持ちを大切にしましょう。必ず新しい発見があります。変動の多い現代社会の中で、乳幼児期にはどんなことを大切にしていったらよいか一緒に考え学び合いましょう。連絡手段等は授業時にお伝えします。

01	授業の進め方等のガイダンスおよび受講生の問題意識の交流
02	乳幼児期に育てたい力とは？（１）「子ども時代」喪失の危機を考える
03	乳幼児期に育てたい力とは？（２）なぜ「今」遊びが大切なのか考える
04	子どもの発達と遊びの中の学び（１）　0・1歳の時期
05	子どもの発達と遊びの中の学び（２）　1・2歳の時期
06	子どもの発達と遊びの中の学び（３）　２・３歳の時期
07	子どもの発達と遊びの中の学び（４）　３・４歳の時期
08	子どもの発達と遊びの中の学び（５）　５・６歳の時期
09	保育実践事例から遊びと学びについて考える（１）　０・１歳児
10	保育実践事例から遊びと学びについて考える（２）　２・３歳児
11	保育実践事例から遊びと学びについて考える（３）　４歳児
12	保育実践事例から遊びと学びについて考える（４）　５歳児
13	遊びと学びについて（１）遊びと学びの関係
14	遊びと学びについて（２）小学校教育との接続・連携の視点から考える
15	遊びと学びについて（３）受講生各自の実践や学んだことの発表・交流
16	まとめ まとめ

科目名:乳幼児心理学特論Ⅱ	担当者:布施 佐代子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
乳幼児の一般的な心理発達過程とそのしくみについて、文献の保育実践事例を読み合いながら確認し、学び直していく。発達の中でも、とくに集団生活における子ども同士の育ち合いに注目し、受講生各自の実践事例等も出し合い検討しながら、乳幼児期の仲間づくり、集団づくりについて具体的に考え、理解を深めていく。乳幼児期の集団づくりに関する文献を受講生でレポーターを分担し、読み合わせながらのディスカッションを中心に進める。

授業の到達目標
１．乳幼児期の心理発達について、一般的な姿を学び直したうえで、保育現場の実際の子どもを見つめ直し理解を　深めることができる。２．生涯発達の視点から乳幼児の発達を的確にとらえ、保育・教育の中での仲間づくり・集団づくりの具体的な方法・内容を考え、自身の実践に活かすことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学ぶ理論的なことと実践を結びつけて理解し、実践に活かしていくことを大切にしていただきたいので、授業だけでなくその前後の学習も重視します。準備学修として、事前に配布された資料やテキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておくこと。事後学修としては、授業で学んだことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしてください。

評価方法
試験課題レポート　60%、授業への取り組み状況・参加態度　40%で、総合的に評価します。

教科書	参考図書
全国幼年教育協議会集団づくり部会編『支えあい育ちあう乳幼児期の集団づくり』かもがわ出版	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
乳幼児期の仲間づくりがなぜ大切なのか、児童期以降の仲間づくりとどうつながっていくのか、子ども同士が互いに認め合い、育ちあっていくためには、保育上どんな工夫や配慮が必要か一緒に考え、学び合いましょう。

01	子どもの育ちと集団づくり　―　「仲間と育ちあう」ことの意義について考える　―
02	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（１）　0歳児
03	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（２）　１歳児
04	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（３）　２歳児
05	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（４）　３歳児
06	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（５）　４歳児
07	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（６）　５歳児
08	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（７）　異年齢保育
09	文献の実践事例から集団づくりの視点を学ぶ（８）　保護者・保育者の仲間づくり
10	子どもの仲間関係、集団づくりに関する文献・論文から学ぶ（１）3歳未満児を中心に
11	子どもの仲間関係、集団づくりに関する文献・論文から学ぶ（２）3歳以上児を中心に
12	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（１）　ごっこ遊び・ルール遊びと子どもの発達
13	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（２）　遊びこむことと行動の切り替えの関係
14	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（３）　障害を持つ仲間との育ちあい
15	実践事例を通して集団づくりの視点を深める（４）　多文化共生の中での育ちあい
16	まとめ（　試験課題レポート　）

科目名:カウンセリング特論Ⅰ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:カウンセリング特論Ⅱも履修するとより理解が深まります。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
情動理論の立場から乳幼児 - 養育者及び仲間同士の関係性を探究していく講義を行います。最初に情動理論の基本概念を示し、国内外の情動研究における重要な知見を概説します。それと併せて、カウンセリングに必要とされる理論と諸技法に関する講義と学生による論文講読を行います。情動理論を参照枠として教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者の理解と心理支援のあり方に対する自らの視点の獲得を目指します。

授業の到達目標
1. 情動理論の基礎的な内容を理解し、説明することができる。
2. カウンセリングの基本的な理論や技法について理解し実践することができる。
3. 理論や技法に関する知識を用い、情動理論を参照枠として、事例の見立てや介入について考えることができる。
4. カウンセリングを学ぶことで自己理解・他者理解を深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション
02	情動理論(１)情動とは何か：機能性/発達/知能
03	情動理論(２)情動はどのように生み出されるのか：自己/他者/社会・文化との関係性
04	情動理論を応用した子どもと養育者の心理支援
05	カウンセラーの職業倫理：「すること」と「してはいけないこと」について理解する
06	カウンセリングの理論①精神分析学
07	カウンセリングの理論①精神分析学についての論文講読、グループ発表
08	カウンセリングの理論②来談者中心療法
09	カウンセリングの理論②来談者中心療法についての論文講読、グループ発表
10	カウンセリングの理論③認知行動療法
11	カウンセリングの理論③認知行動療法についての論文講読、グループ発表
12	心理テストの実習　自己理解・他者理解を深める
13	カウンセラーに必要な資質と条件
14	カウンセリング心理学研究法
15	研究テーマの発見
16	なし

2021年度シラバス

科目名:カウンセリング特論Ⅱ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:カウンセリング特論Ⅰを受講していること		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者を対象とした心理支援と心理学研究の方法論について、講義とワーク中心に理解を深めます。

授業の到達目標
1. 教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者を対象とした心理支援と心理学研究の方法論について理解を深める
2. 各自の研究テーマに適した研究方法を選択することができる
3. 心理支援のための基本的な理論と諸技法について学ぶ。また、知的理解にとどまらず、心理面接の事例検討やロールプレイ等を通して、体験的に理解することを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや保護者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション　カウンセリング特論Ⅰの振り返り
02	カウンセリングと心理学研究の方法論　アセスメントとは
03	カウンセリングと心理学研究の方法論　行動観察
04	カウンセリングと心理学研究の方法論　質問紙法
05	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（1）発達検査
06	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（2）知能検査
07	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（3）投影法
08	カウンセリングと心理学研究の方法論　面接
09	面接を体験的に学ぶ　ロールプレイ（発達に個性を持つ乳幼児の保護者の事例）
10	面接を体験的に学ぶ　ロールプレイ（情動に個性を持つ乳幼児の保護者の事例）
11	カウンセリングと心理学研究の方法論　プレイセラピー
12	プレイセラピーを体験的に学ぶ　（集団に適応できない幼児の事例）
13	集団面接について学ぶ　家族療法
14	カウンセリングのインテークから終結までの流れについて理解する
15	研究論文計画書作成　各自の研究テーマに適した研究方法の論文を購読し発表
16	なし

科目名:教育相談特論Ⅰ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:教育相談特論Ⅰと教育相談特論Ⅱを続けて履修することが望ましい		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育の場で、相談支援を実践、探求していくための講義を行います。最初に教育相談の基本概念を示し、関連する研究知見を概説します。それと併せて教育相談に必要とされる理論と諸技法に関する講義と学生による論文講読を中心に授業を進めます。教育の場で出会う子どもたちや保護者の理解と相談支援のあり方に対する自らの視点の獲得を目指します。

授業の到達目標
1. 教育相談の基礎的知識を理解し、説明することができる。
2. 教育相談の技法について理解し実践することができる。
3. 理論や技法に関する知識を用い、相談事例の見立てや介入について考えることができる。
4. 教育の場で、理論や技法に関する知識を自分の力として実際に使うことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育の場で出会う子どもたちや養育者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション
02	教育相談の基礎　意義と役割
03	教育相談の基礎　保護者への対応と基本
04	教育相談の基礎　教師のメンタルヘルスとその対応
05	教育相談に関する論文講読、グループ発表
06	教育相談に必要な発達と精神病理の知識
07	教育相談の実際（１）不登校への対応と予防
08	教育相談の実際（２）いじめへの対応と予防
09	教育相談の実際（３）非行への対応と予防
10	教育相談の実際（４）情報化社会における問題と対応
11	教育相談の実際（５）児童虐待とその対応
12	教育相談の実際（６）配慮が必要な子どもの理解と対応
13	教育相談の実際（７）子育てと家族の問題への対応
14	研究テーマに適した事例研究の論文講読、グループ発表
15	研究テーマの発見
16	なし

科目名:教育相談特論Ⅱ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:教育相談特論のⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育の場で出会う子どもたちや保護者を対象とした相談支援と心理学研究の方法論について、講義とワーク中心に理解を深めます。

授業の到達目標
1. 教育の場で出会う子どもたちや保護者を対象とした相談支援と心理学研究の方法論について理解を深める。
2. 相談支援のための基本的な理論と諸技法について学ぶ。また、知的理解にとどまらず、相談支援の事例検討やロールプレイ等を通して、体験的に理解することを目指す。
3. 教育の場で、理論や技法に関する知識を自分の力として実際に使うことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育の場で出会う子どもたちや保護者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション　教育相談特論Ⅰの振り返り
02	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（1）言語的なかかわりを中心として
03	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（2）非言語的なかかわりを中心として
04	教育相談における心理アセスメントについて学ぶ
05	教育現場で使用する心理検査について学ぶ　発達検査・知能検査
06	心理検査を教育相談に活かす方法を学ぶ
07	事例から学ぶ教育相談（１）不登校
08	事例から学ぶ教育相談（２）いじめ
09	事例から学ぶ教育相談（３）非行
10	事例から学ぶ教育相談（４）児童虐待
11	事例から学ぶ教育相談（５）子育てと家族の問題
12	事例から学ぶ教育相談（６）精神病理の問題
13	教育相談における職員間の連携について学ぶ
14	事例を通して関係機関とのコーディネートについて学ぶ
15	研究論文計画書作成　各自の研究テーマに適した論文を購読し発表
16	なし

2021年度シラバス

科目名:教育心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもを取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が指摘され、小1プロブレムなど発達や学びの連続性を確保することも課題となっている。教育心理学特論Ⅰでは、理論と実践を統一した学びを体現するため、教育実践に資する研究を自らが行うための実力を養う。教員による講義と学生の論文紹介を中心に、教育・保育の現場で出会う子どもたちや教師・保育者の心理を学ぶ。

授業の到達目標
1）教育心理学の基礎的知識を説明することができる。2）教育・保育における今日的課題を理解できる。3）学術論文の内容を理解し、他者にプレゼンすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（30%）、論文紹介発表（40%）、研究課題レポート（30%）

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育における子ども理解に果たす教育心理学の役割
02	乳幼児期の遊びが知的・身体・社会性・情緒・言語発達に与える影響
03	親子関係と仲間関係が社会性の発達に与える影響
04	役割取得能力や社会的スキルの発達・学習
05	認知発達理論に基づいた道徳性、思いやりの発達
06	心の理論を背景にした嘘、関係性攻撃
07	自己効力感、有能感の獲得と発達
08	習うこと・真似ることの意味
09	子どもの意欲の源泉
10	評価されること、評価すること
11	先生としてのリーダーシップ
12	学習の躓きとワーキングメモリ
13	適正処遇交互作用
14	発達の偏りや外国につながりのある子など特別に配慮が必要な子どもの心理
15	研究のシーズをみつける
16	なし

科目名:教育心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特論Ⅰでは教育・保育の今日的課題を研究から理解し、研究のシーズを各自が発見することを目標とした。特論Ⅱでは、教育心理学が対象とする子どもの発達、学習過程、グループダイナミックス、適応、教授法、評価などを研究する際の方法論について講義とワークを中心に行う。

授業の到達目標
1）心理学の方法論について説明できる。2）研究目的にそった方法論を選択することができる。3）様々な研究方法を実践することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、研究課題レポート（50%）

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育の今日的課題の確認
02	教育・保育で活かす心理学の研究方法
03	実験法（1）体験
04	実験法（2）分析
05	実験法（3）考察
06	質問紙調査（1）体験
07	質問紙調査（2）分析
08	質問紙調査（3）考察
09	面接法（1）体験
10	面接法（2）分析
11	面接法（3）考察
12	観察法（1）体験
13	観察法（2）分析
14	観察法（3）考察
15	研究論文の構成
16	なし

科目名:教育学特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
この授業では、日本型のしつけと西欧型のしつけの比較を通して、家庭での親子関係や、幼稚園、保育園での就学前教育と学校教育との接続について考察し、小学校、幼稚園、保育園の実践を相対化する視座を養う。併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。　＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書
　恒吉僚子『子どもたちの三つの「危機」　国際比較から見る日本の模索』勁草書房

参考図書
　適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	日本型のしつけと教育のシステム
03	人格形成力
04	教育に貢献する文化
05	平等主義
06	均質的高学力
07	絆の育児
08	就学前教育
09	家庭と学校の断絶
10	努力の文化
11	子どもの二極化
12	日本の価値
13	全人教育の再評価
14	日本の家庭について考える
15	日本の小学校、幼稚園、保育園の実践を考える
16	なし

科目名:教育学特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
この授業では、日本型のしつけと西欧型のしつけの調査研究の比較を通して、家庭での親子関係や、幼稚園、保育園での就学前教育と学校教育との接続について考察し、小学校、幼稚園、保育園の実践を相対化する視座を養う。併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
東洋『日本人のしつけと教育　発達の日米比較にもとづいて』東京大学出版会	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	日本のしつけと教育
03	アメリカのしつけと教育
04	受容的勤勉性
05	自主的選考性
06	夫婦中心
07	アタッチメントの在り方
08	言語的自己主張
09	自己統制
10	自立
11	権威
12	母子の心情の一体化
13	教え込み型
14	滲み込み型
15	日本の小学校、幼稚園、保育園の実践を考える
16	なし

2021年度シラバス

科目名:教育史特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、斎藤公子とさくら・さくらんぼ保育の実践を通して、人が育つということについての斎藤公子の知の世界を考察し、幼児教育・児童教育について考える視座を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
斎藤公子『子育て＝錦を織る仕事』『斎藤公子の保育論』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	語りきかせ
03	保育の芯、子育ての芯
04	子どもの心を探る、掴む
05	子どもと食事
06	子どもと盗み
07	子どもと嫉妬
08	保育の仕事を支えるもの
09	胎児からの保育
10	ゼロ歳児～六歳児の保育
11	ヒトの進化と保育
12	自然環境について
13	家庭環境について
14	斎藤公子の知（育つことの哲学）
15	斎藤公子が考える人間の姿（保幼小の育ち）
16	なし

2021年度シラバス

科目名:教育史特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。　２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、倉橋惣三の著作の講読を通して、倉橋の子ども観、教育観、誘導保育について検討し、倉橋が描いた子ども理解と教育計画の特性を保幼小の観点から教育史の中に位置づける視座を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修２時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
倉橋惣三『幼稚園真諦』『幼稚園雑草(上)(下)』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	幼稚園保育法
03	保育案の実際
04	保育過程の実際
05	園丁雑感
06	森の幼稚園
07	幼稚園雑感
08	幼児の教育者
09	幼児教育小観
10	保育論形成期
11	フレーベル幼稚園
12	恩物
13	倉橋惣三の教育史的位置付け
14	誘導保育と小学校教育
15	誘導保育と現代
16	なし

2021年度シラバス

科目名:幼児教育学特論Ⅰ	担当者:上村 晶	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:幼稚園教諭専修免許状		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
乳幼児期の子どもを取り巻く幼児教育・保育に関する現状や今後の展望について，国内外の動向を踏まえた上で、今日的課題について検討する。加えて、受講者の関心トピックや研究的問いをディスカッションを通じて深掘りしていく中で、保育・幼児教育の質に関する自身の考えを明確にできるようにする。【AL】

授業の到達目標
①国内外の幼児教育・保育の質を巡る動向に関する基礎的知識を修得する。
②受講者間同士の対話を通して、エビデンスに基づきながら自身の問題意識や研究的問いを明確にする。
③国内外の現状を踏まえ、今後の保育の在り方に関する課題を整理し、今後の研究への示唆を得る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今年度は「幼児教育・保育の国際比較」を主テーマとして取り上げます。各回において課題となる文献・資料等を事前に通読し、自身の見解を明確にしておいてください。また、ファイナルレポートは、第13回までの学びを生かしながら、作成・発表できるよう備えてください。

評価方法
文献レビューと発表（30%）、ディスカッションへの参加（30%）、ファイナルレポート（40%）で総合評価を行う。

教科書	参考図書
国立教育政策研究所（編）「幼児教育・保育の国際比較：OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書」明石書店	受講者の研究的関心を考慮して、随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず、各々が常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OHや連絡先は初回授業時及びMoodleに開示します）。

01	オリエンテーション、個々の研究テーマ等の発表
02	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（１）検索・収集の方法
03	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（２）資料の収集
04	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（３）レジュメ作成の方法・発表方法
05	OECD諸国における幼児教育・保育の質の議論の変遷
06	文献の発表・ディスカッション（１）－OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018の概要と政策への示唆
07	文献の発表・ディスカッション（２）－子ども・保育者・保護者間のやりとり
08	文献の発表・ディスカッション（３）－園長・保育者の勤務環境とその支援
09	文献の発表・ディスカッション（４）－園の環境と構造の質
10	文献の発表・ディスカッション（５）－ガバナンス・資金調達と幼児教育・保育の質
11	幼児教育・保育の質の国際的動向に関する私見発表
12	国内の幼児教育・保育の質の議論に関するディスカッション（１）ー幼稚園教育に着目して
13	国内の幼児教育・保育の質の議論に関するディスカッション（２）－保育所保育に着目して
14	国内外における幼児教育・保育の質を巡る議論に関するファイナルレポート作成
15	発表・ディスカッション、総括
16	

科目名:幼児教育学特論Ⅱ	担当者:上村 晶	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:幼稚園教諭専修免許状		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
実際の幼児教育・保育におけるフィールド・スタディーを通して、実践現場に根差した研究的問いを立てながら、多様な研究方法や研究倫理について理解を深める。また、実際にデータ収集・分析をした上で、受講生同士の対話を通じて多角的な視点から考察する中で、論理的な思考の在り方について理解を深める。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育の実践に根差した多様な研究方法や研究倫理について理解を深める。
②幼児教育・保育における研究的問いを立てながら、研究デザインの構想に必要な基礎的知識を修得する。
③実際に幼児教育・保育のフィールドに出向いてデータ収集・分析する中で、エビデンスに基づく論理的な考察の在り方を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今年度は、研究テーマを具現化する研究方法について理解を深めながら、受講者間の議論を踏まえて選定した「幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータ収集と分析」を主テーマとして取り上げます。各回において課題となる文献・資料等を事前に通読すると同時に、授業外においても積極的に各自のデータ分析に取り組んでください。
また、第7-9回は実際にフィールドに出向いてデータ収集を行う予定ですが、Covid-19の感染状況に応じて適宜判断・変更する可能性もありますのでお含みおきください。なお、ファイナルレポートは、第13回までの学びを生かしながら、作成・発表できるよう備えてください。

評価方法
文献レビューと発表（30%）、ディスカッションへの参加（30%）、ファイナルレポート（40%）で総合評価を行う。

教科書	参考図書
指定しない	受講者の研究的関心を考慮して、随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず、各々が常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OHや連絡先は初回授業時及びMoodleに開示します）。

01	オリエンテーション、個々の研究テーマ等の発表
02	研究デザインについて　－研究計画書の作成方法
03	研究倫理について　－研究倫理審査の概要
04	フィールドワークと依頼方法　－依頼文書作成の方法
05	様々なデータ収集方法（１）－量的研究
06	様々なデータ収集方法（２）－質的研究
07	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（１）保育環境に着目して
08	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（２）子どもの姿に着目して
09	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（３）保育者の援助に着目して
10	収集データの分析方法（１）－量的研究
11	収集データの分析方法（２）－質的研究
12	分析データの発表・ディスカッション
13	分析データを踏まえた総合考察
14	研究的問いに即したファイナルレポート作成
15	発表・ディスカッション、総括
16	

科目名:社会学特論Ⅰ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　社会学の巨匠と呼ばれるA．コント、M．ウェーバー、T．パーソンズ、また、カント、ヘーゲル理論から、「社会とは何か」「自らが問題とする対象を研究する際に、研究者が踏まえるべき前提」とは何かを学習する。「研究する」ということ、研究対象を選定するということ、その方法論等の研究における受講生の基本的な姿勢・実践を、授業中に扱う社会学理論に依拠しながら確認・習得する。

授業の到達目標
授業テーマの講義・説明後、受講者の選定に基づく課題についての研究成果を発表する。この場合、発表の準備、プレゼンテーションの方式、文書資料の探索と整理、口述の技法などについても理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
受講者が分担する課題について、その発表の準備、プレゼンテーションの方式等についての解説に則り、レジュメ等の準備をする。また、その発表後の研究成果についてのレポート作成を事後学修とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。

教科書	参考図書
柿本昭人・嶋守さやか『社会の実存と存在』世界思想社、1998年	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。社会学・理論についての習熟度は問わない。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとする。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	映像資料による「社会」の理解――記録と記述について
03	映像資料による「社会」の理解――グループディスカッションおよびプレゼンテーション
04	「社会」とは何か――研究対象を定めるということ
05	デュルケム――「もの」としての社会
06	デュルケム――「規範」とは何か
07	パーソンズ――「システム」という考え方
08	パーソンズ――秩序と病理
09	ウェーバー――宗教と社会
10	ウェーバー――主観性と科学
11	カント――「認識」自体の成立と始源
12	ヘーゲル――無限判断
13	ヘーゲル――Xを思考する
14	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
15	まとめ――社会学は「社会」を研究する学問なのか？
16	なし

2021年度シラバス

科目名:社会学特論Ⅱ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　研究対象となる社会の営みを質的に調査する手法について学修する。フィールドワーク、参与観察法、聞取り調査、ライフヒストリー研究、ドキュメント分析等の質的調査法に関する基本的理解を踏まえ、受講者の関心対象に応じたフィールドでの聞取り調査を実施し、質的データの収集と質的分析について理解する。

授業の到達目標
　統計的数量的調査とは異なる事例研究の技法を習得し、様々な事例研究方法の理解および実践的能力を習得することを授業の到達目標としたい。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業テーマの講義・説明後、そのテーマ内容と受講者の関心に応じた予備調査を行うことを準備学修課題とする。また、その質的データ分析結果をレポートとしてまとめることを事後学修課題とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。

教科書	参考図書
授業中に指示する	嶋守さやか『孤独死の看取り』新評論

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	質的調査の基本的な考え方
03	質的調査と研究倫理
04	質的調査法（１）フィールドワーク、参与観察法
05	質的調査法（２）ライフヒストリー分析、会話分析
06	質的調査法（３）ドキュメント分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ
07	質的調査法（４）聞きとり調査、インタビュー（構造化、半構造化）
08	質的調査の実際（１）問いを立て、技法を選択する
09	質的調査の実際（２）記録する
10	質的調査の実際（３）データを処理する
11	質的調査の実際（４）結果を分析する
12	質的調査の実際（５）考察を行う
13	質的調査の実際（６）報告書を作成する
14	質的調査の実際（７）調査結果を報告する
15	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
16	なし

科目名:保育内容特論Ⅰ	担当者:田中 義和	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育学研究における遊び研究の到達点と課題について学び、保育における遊び指導の在り方について検討する。

授業の到達目標
遊び研究の現状と課題について理解し、研究的な視点を持ち、保育実践に取り組む力量を形成する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献についての報告準備。授業中に課された課題の提出。

評価方法
授業態度（50%） レポート（50%）

教科書	参考図書
特に使用しない。	授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
たくさんの論文を読み、多様な研究方法について理解を深めてください、。連絡手段は、授業中に指示します。

01	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（へんかする素材の遊び）
02	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
03	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
04	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
05	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
06	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
07	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
08	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論 （鬼遊び）
09	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（探険遊び
	び)	
10	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（険遊び）
11	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（探険遊び）
12	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論 【プロジェクト活動）
13	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
14	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
15	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
16		

科目名:保育内容特論Ⅱ	担当者:田中 義和	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
描画表現活動の指導について主な民間教育団体（保育問題研究会・創造美育協会・美術教育を進める会・新しい絵の会・キミコ方式など）の理論と実践について学ぶ。

授業の到達目標
保育内容「表現」領域、特に描画表現活動の発達と指導について、保育学研究の到達点と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業でとりあげる文献についての報告準備。授業中に出された課題の学習。

評価方法
授業態度（50%） レポート（50%）

教科書	参考図書
授業中に指示	授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的に討論に参加してください。

01	なぐりがき期の発達
02	なぐりがき期の指導
03	前図式期の発達
04	前図式期のの指導
05	図式の発達　子どもらしい表現とは
06	図式期の指導　生活の表現を中心に
07	絵の苦手な子の指導
08	障害を持つ子どもたちの描画発達　自閉症児を中心に
09	障害を持つ子どもたちの描画指導
10	子どもの絵の診断的見方　描画テストと描画療法
11	子どもの絵の診断的見方　保育実践の中での診断的見方
12	絵の描き方を教えること　松本キミ子方式
13	創造美育協会の理論と実践　変化する素材（自然の素材）
14	創造美育協会の理論と実践　感触遊び
15	東京保育問題研究会絵画部会の理論と実践　観察画を中心に
16	

2021年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもの今日的な課題を把握するため、研究的な視点を持って文献を網羅し、健康に関する理解を深めます。授業計画に列挙されている内容を受講者が分担し、プレゼンテーションを行っていただきます。先行研究における研究手法や統計解析方法についても学習します。

授業の到達目標
国内外の子どもの健康について、ご自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる。量的研究および質的研究の方法や統計解析を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献の準備とプレゼンテーション

評価方法
ディスカッションへの取り組み60%　プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	子どもの健康について：学術論文の検索、文献の記載方法
02	子どもの健康について：研究手法を検討する：量的研究、質的研究
03	子どもの健康について：研究手法を検討する：質的研究における研究手法
04	子どもの健康について：研究手法を検討する：調査
05	子どもの健康について：研究手法を検討する：インタビュー
06	子どもの健康について：研究手法を検討する：介入
07	日本の子どもの健康：近世の健康教育
08	日本の子どもの健康：現代の健康教育
09	日本の子どもの健康：幼稚園教育要領および保育所保育指針における位置づけとその変遷
10	日本の子どもの健康：発育発達
11	日本の子どもの健康：発達障害（身体的）
12	日本の子どもの健康：発達障害（精神的）
13	日本の子どもの健康：生活環境
14	日本の子どもの健康：疾病
15	日本の子どもの健康：経済と政策
16	

2021年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅳ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもの今日的な課題を把握するため、研究的な視点を持って文献を網羅し、身体運動に関する理解を深めます。授業計画に列挙されている内容を受講者が分担し、プレゼンテーションを行っていただきます。先行研究における研究手法や統計解析方法についても学習します。

授業の到達目標
国内外の子どもの健康について、ご自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる。量的研究および質的研究の方法や統計解析を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献の準備とプレゼンテーション

評価方法
ディスカッションへの参加60%、プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:収集した学術論文のまとめ1
02	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:収集した学術論文のまとめ2
03	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:研究手法の選択
04	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:アンケートの実例
05	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:インタビューの実例
06	子どもの健康に関して受講者によるプレゼンテーション:介入研究の実例
07	発育発達と運動:幼児期
08	発育発達と運動:児童期
09	発育発達と運動:青年期
10	幼稚園教育要領および保育所保育指針における身体運動の位置づけとその変遷
11	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　3歳未満
12	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　年少
13	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　年中
14	子どもの体力、運動能力向上のための実践例　年長
15	小学校体育との連携
16	まとめ

2021年度シラバス

科目名:食育特論Ⅰ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 １．食育に関する指針や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）２．子どもの発育・発達に合わせた食育に関するディスカッションと演習（9回）
授業の到達目標 １．栄養についての基礎知識や、食育、食生活に関する諸問題について理解する２．食育に関する文献を収集し、ディスカッションすることができる３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 自分自身の食生活についての振り返りを常に行うこと。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に調べ、考える力を養うこと。
評価方法 授業への参加態度40%、プレゼンテーション60%の割合で評価する

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	保育所保育指針　等　各指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食育に関する指針（１）食育基本法と食育基本計画
03	食育に関する指針（２）保育所保育指針　保育所における食育に関する指針
04	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
05	食育に関する文献収集と論文抄読
06	食生活の現状と食育計画
07	乳児期の食育
08	1歳児の食育
09	2歳児の食育
10	3歳児の食育
11	4歳児の食育
12	5歳児の食育
13	学童期の食育
14	保護者を交えた食育
15	特別な配慮を要する子どもの食育
16	

2021年度シラバス

科目名:食育特論Ⅱ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．食に関する諸問題をテーマとした食育に関する計画と演習（4回）
２．地域の特性を活かした食育に関する計画と演習（3回）
３．子どもを対象とした食育に関する計画と演習（8回）

授業の到達目標
１．食生活に関する諸問題を踏まえた食育を計画することができる
２．地域の特性を活かした食育を計画することができる
３．幼児・児童を対象とした食育を実践するためのスキルを身につけることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
食生活に関する諸問題についての情報収集と演習後の振り返り
地域で行われている食育活動に関する調査（広報・新聞など）
食文化に関する調べ学習
食育活動に関する情報収集（論文・文献など）
プレゼンテーションの準備

評価方法
授業（各演習時のプレゼンテーション含む）への参加態度70％、レポート課題30％の割合で評価する

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	食育白書　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食の諸問題と食育活動
03	食の諸問題に対応した食育計画
04	食の諸問題に対応した食育計画と演習
05	地域の食文化と食育活動
06	地域の食文化を活かした食育計画
07	地域の食文化を活かした食育計画と演習
08	保育園・幼稚園における食育
09	保育園・幼稚園における食育計画
10	保育園・幼稚園における食育計画と演習
11	子どもを対象とした食育
12	子どもを対象とした食育の計画
13	子どもを対象とした食育の準備
14	子どもを対象とした食育の演習
15	子どもを対象とした食育の振り返り
16	

2021年度シラバス

科目名:体育特論Ⅰ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。
「体育特論Ⅰ」では、まず子どもの体力低下の現状と原因について、調査と意見交換を通して課題の整理を行う。また、教育現場での体育指導の見学を通して、学校体育の課題を検討する。その上で、体力向上を実現する体育授業のあり方を考える。
なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
１、子どもの体力低下の現状を理解する。
２、学校体育の課題を理解する。
３、体力向上を実現するための指導計画を立案する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもの体力低下に関する関連資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。

評価方法
講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（40%）、実践活動（40%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業の概要、子どもの体力低下①
02	子どもの体力低下②（文献抄読）
03	子どもの体力低下③（文献抄読、教育現場の現状）
04	子どもの体力低下④（調べ学習の発表）
05	学校体育の課題①（文献抄読、教育現場の現状）
06	学校体育の課題②（授業見学）
07	学校体育の課題③（授業見学）
08	学校体育の課題④（現場での聞き取り）
09	学校体育の課題⑤（意見交換）
10	課題への対応策の検討①（グループ内討議）
11	課題への対応策の検討②（グループ間討議）
12	課題への対応策の検討③（まとめ）
13	指導計画作成
14	指導計画作成についての意見交換
15	まとめ
16	なし

2021年度シラバス

科目名:体育特論Ⅱ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。
「体育特論II」では、「体育特論Ⅰ」で立案した授業計画の一部を実践し、さらに現場の教師と意見交換することを通して、自分の指導力を高めるとともに、体力向上を実現する授業のあり方を考える。
なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
１、指導計画に基づいた授業実践を行う。
２、実践を振り返り、次の授業計画を立案する。
３、体力向上を実現する授業方法について自分なりの考えを持つ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
体育科教育に関する資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。

評価方法
講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（40%）、発表（40%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「体育特論II」の履修には「体育特論Ⅰ」の単位取得を必要とする。

01	授業の概要、指導計画について
02	体育授業の実践例①（球技）
03	体育授業の実践例②（陸上運動）
04	体育授業の実践例③（ダンス）
05	指導計画の立案
06	指導計画についての意見交換
07	指導計画の修正
08	授業実践
09	授業実践の振り返り、改善策の検討
10	体育科教育に生かす運動生理学
11	体育科教育に生かす疫学
12	体育科教育に生かす運動方法学
13	体育科教育に生かす体育心理学
14	体育授業の意義
15	まとめ
16	なし

2021年度シラバス

科目名:児童福祉特論 I	担当者:古畑 淳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについて研究する。授業では、国や自治体の児童福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする裁判事例の検討などを行う。　授業は、教員の講義、受講者のレポート報告（プレゼンテーション）、テーマ討論（グループディスカッション）、文献講読等を組み合わせて進めていく。【AL】

授業の到達目標
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについての理解を深めることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　報告者は、指示した文献、裁判例を熟読した上でレポート報告レジュメを作成し、授業に臨むこと。　指示した文献、裁判例をよく読んで、知識の定着を図ること。

評価方法
　報告の準備内容（25%）、報告内容（25%）、討論への参加状況（25%）レポート試験（25%）で評価する。　レポート試験として、授業で取り上げたテーマについての6000字程度のレポートを求める。

教科書	参考図書
社会福祉法令が掲載されている六法を授業で使用する。開講時に紹介する。	必要に応じて紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等のある院生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	ガイダンス
02	児童（子ども）の人権について
03	児童（子ども）の人権問題の現状
04	児童育成の責任主体（保護者の責任）
05	児童育成の責任主体（公的責任）
06	児童福祉サービスの体系の現状
07	児童福祉サービスの体系の課題
08	児童福祉の実施体制の現状
09	児童福祉の実施体制の課題
10	児童福祉サービスの供給主体の現状
11	児童福祉サービスの供給主体の課題
12	児童福祉サービスの規制監督の仕組み
13	児童福祉サービスの規制監督をめぐる課題
14	児童福祉サービスの利用手続の仕組み
15	児童福祉サービスの利用手続の課題
16	

2021年度シラバス

科目名:児童福祉特論Ⅱ	担当者:古畑 淳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについて研究する。授業では、国や自治体の児童福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする裁判事例の検討などを行う。　授業は、教員の講義、受講者のレポート報告（プレゼンテーション）、テーマ討論（グループディスカッション）、文献講読等を組み合わせて進めていく。【AL】

授業の到達目標
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについての理解を深めることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　報告者は、指示した文献、裁判例を熟読した上でレポート報告レジュメを作成し、授業に臨むこと。　指示した文献、裁判例をよく読んで、知識の定着を図ること。

評価方法
　報告の準備内容（25%）、報告内容（25%）、討論への参加状況（25%）レポート試験（25%）で評価する。　レポート試験として、授業で取り上げたテーマについての6000字程度のレポートを求める。

教科書
　社会福祉法令が掲載されている六法を授業で使用する。開講時に紹介する。

参考図書
　必要に応じて紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等のある院生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	ガイダンス
02	児童福祉の財政
03	児童福祉の費用負担
04	保育保障（制度改革の内容）
05	保育保障（制度改革の課題）
06	保育保障（自治体の保育政策）
07	保育保障（自治体の保育課題）
08	児童虐待の現状
09	児童虐待防止の課題
10	児童虐待と児童保護の法システム
11	児童虐待事例の法的検討
12	ひとり親家庭の福祉
13	ひとり親家庭の所得保障
14	児童の人権
15	児童の人権をめぐる裁判事例の検討
16	

2021年度シラバス

科目名:図画工作特論Ⅰ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講Ⅰでは、「小学校図画工作とは何を教える授業なのか」という教科の存在意義について、戦後の学習指導要領変遷とそれに関わる様々な論考を参考にしながら考察する。令和2年4月より完全実施された第8次改訂の小学校学習指導要領は、多様な社会の変化に主体的に関わる力や新たな価値の発見や創造するための力の育成を目指すものとして示されている。そこで本講では、戦後の教科の創生に立ち返りながら、新しい時代の図画工作教育の在り方について検討を行う。

授業の到達目標
（１）図画工作科の教科の成り立ちについて理解することができる。
（２）図画工作科の目標と内容が時代背景を受けながらどのように変遷してきたのかということについて理解することができる。
（３）図画工作科の３つの学習領域（造形遊びをする活動、絵や立体・工作に表す活動、鑑賞活動）における今日的な指導課題について理解することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・学習指導要領の変遷に関わる論考を事前に読み、時代背景や教育課題について事前にまとめておく。
・受講後に関連する資料を読み、考察をまとめる。

評価方法
講義への出席（10%）、最終的なプレゼン発表（60%）・関連資料（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。小学校教諭専修免許状の取得を目指す者が望ましい

01	ガイダンス（図画工作特論Ⅰの概要、指導スケジュール等）
02	図画工作教育の目標の変遷
03	昭和22年版（試案）について
04	昭和26年版（試案）について
05	昭和33年度版について
06	昭和43年度版について
07	昭和52年度版について
08	平成元年度版について
09	平成10年版度について
10	平成20年度版について
11	平成29年度版について
12	造形遊びの指導課題について
13	絵や立体・工作に表す活動の指導課題について
14	鑑賞教育の指導課題について
15	発表・まとめ
16	

科目名:図画工作特論Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講Ⅱは、小学校図画工作の各学年の目標や内容を踏まえ、造形遊びをする活動・絵や立体、工作に表す活動・鑑賞活動においてオリジナル題材の開発を行うことを目的とする。それぞれの学習領域の構成や活動の関連性を踏まえながら、材料や用具の基礎的な扱い方や指導上の留意点等について体験的に学ぶ。さらに、今日の指導課題である合科・教科横断型の指導やICTを用いた授業展開を目指し、様々な実践事例の収集を行うとともに多面的・多角的な教育評価の方法について理解する。

授業の到達目標
・図画工作科の学習領域の構成、目標と内容との関連性について理解することができるようになる。
・制作活動で用いる材料や用具の基本的な扱い、指導上の留意点について理解できるようになる。
・子供の発達を踏まえたオリジナルの題材開発ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・図画工作の様々な教育実践の事例収集を行うこと。
・指定された資料について事前に熟読しておくこと。
・オリジナル題材に関する作例の制作とレポートの執筆を行うこと。

評価方法
講義への出席（10%）、レポート（60%）・発表（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業においてパソコンを利用し、資料の閲覧を行う。小学校教諭専修免許状の取得を目指す者が望ましい。

01	ガイダンス（図画工作特論Ⅱの概要、指導スケジュール等）
02	造形遊びの特質と題材について（低学年）
03	造形遊びの特質と題材について（中学年）
04	造形遊びの特質と題材について（高学年）
05	絵に表す活動の特質と題材について（低学年）
06	絵に表す活動の特質と題材について（中学年）
07	絵に表す活動の特質と題材について（高学年）
08	立体・工作に表す活動の特質と題材について（低学年）
09	立体・工作に表す活動の特質と題材について（中学年）
10	立体・工作に表す活動の特質と題材について（高学年）
11	鑑賞活動の特質と題材について（低学年）
12	鑑賞活動の特質と題材について（中学年）
13	鑑賞活動の特質と題材について（高学年）
14	図画工作における教育評価について
15	レポート発表と討論
16	

2021年度シラバス

科目名:特別支援教育特論Ⅰ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 特別支援教育の概要とその動向について歴史的背景、教育課程と教育内容、教育制度や教育政策、障害児者福祉、教育権保障の視点から検討する。さらにインクルーシヴ教育の国際的な動向について検討を深める。
授業の到達目標 ①わが国の特別支援教育の概要を理解すること。②特別支援教育の動向を多方面から分析すること。③インクルーシヴ教育の国際的な動向について理解すること。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修としては特別支援教育に関連する基本文献を各自がレビューすること。事後学修としては障害児者に対し実践的にかかわる経験をできるだけ多く持つことが求められる。
評価方法 授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講するにあたって特別支援教育に対する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただきたい。その答えや解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。

01	障害の概念
02	障害者の歴史と教育
03	障害者福祉の発展と障害児の教育問題
04	ノーマライゼーションとリハビリテーション
05	自立生活運動の広がりと特殊教育
06	ICFが教育に与えた影響
07	21世紀における障害者制度改革
08	特殊教育から特別支援教育へ
09	学習指導要領（特別支援教育）の概要
10	特別支援教育における特色ある教育課程
11	特別支援教育におけるキャリア支援
12	特別支援教育と教育者に求められる専門性
13	特別支援教育を取り巻く世界の状況
14	イギリスにおけるインクルーシヴ教育
15	特別支援教育の課題
16	なし

科目名:特別支援教育特論Ⅱ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特別支援教育制度とカリキュラムの現状について概説する。さらに障害種別ごとに必要とされる特別支援教育の基本的な理念や教育方法の概要について解説する。

授業の到達目標
①特別支援教育制度とカリキュラムの現状を理解する。②障害種別ごとの基本的な理念、概要、教育方法の現状について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修としては特別支援教育に関連する基本文献を各自がレビューすること。事後学修としては障害児者に対し実践的にかかわる経験をできるだけ多く持つことが求められる。

評価方法
授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたって特別支援教育に対する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただきたい。その答えや解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。

01	特別支援教育制度
02	特別支援教育の場
03	特別支援教育のカリキュラム
04	視覚障害教育の理念と概要
05	視覚障害教育の現状
06	聴覚障害教育の理念と概要
07	聴覚障害教育の現状
08	知的障害教育の理念と概要
09	知的障害教育の現状
10	肢体不自由教育の理念と概要
11	肢体不自由教育の現状
12	病弱教育の理念と概要
13	病弱教育の現状
14	発達障害教育の理念と概要、現状
15	特別支援教育と関連社会資源との連携
16	なし

科目名:保育内容特論Ⅴ	担当者:鈴木 裕子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
子どもが充実した園生活を送り、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うために必要な指導計画および保育内容の立案と、具体的な実践方法について学ぶ。遊びを含めた身体活動・身体表現活動関連の実践研究の方法論を学び，研究的な視点から分析・考察を行うことを通して，実践後における省察および実施内容の評価のプロセスについて，保育教材開発や指導方法を考える視点と，子どもの心理，発達を捉えるという子ども理解の視点をもとに理論と実践の双方向から学修する

授業の到達目標
現代の幼児教育・保育は，家庭や地域からの期待も大きく，様々な社会的要請を受ける状況にある。既存の保育学・幼児心理学・保育内容学の学びや研究だけでは充分な対応ができなくなっており，今日的な課題に照らし合わせて実践する学びが強く求められる。本授業では，保育現場に寄り添って臨床的・実践的に研究できる能力と，それらの研究と実際の保育の環流を図り，創造的に追究できる高度な実践力を培うことを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
課題となる文献，論文，資料を購読するなど，授業での内容をフィードバックしながら自主的な学びを深めて欲しい。

評価方法
文献のレビューと発表60%，討論への参加40%

教科書	参考図書
指定しない	受講生の興味関心，背景を考察し随時紹介し内容の充実を図る

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践に関わっている人も、そうでない人も、自らの問題意識を明らかにして臨んでほしい。

01	オリエンテーション：課題の設定
02	特色のある保育内容・実践事例の検討：身体性と発達
03	特色のある保育内容・実践事例の検討：身体的な応答性
04	特色のある保育内容・実践事例の検討：身体的なコミュニケーション
05	特色のある保育内容・実践事例の検討：幼児間の模倣
06	特色のある保育内容・実践事例の検討：感性
07	特色のある保育内容・実践事例の紹介と検討：創造的な活動
08	特色のある保育内容・実践事例の紹介と検討：豊かな身体表現活動
09	保育者の役割：実践的な報告や論文からの考察と討論
10	保育者の役割：実践的な報告や論文からの考察と討論
11	保育実践を研究へと焦点化するために：問題の所在と目的
12	保育実践を研究へと焦点化するために：研究計画の立案，研究実施のための方法の概要
13	保育実践を研究へと焦点化するために：研究方法
14	保育実践を研究へと焦点化するために：考察
15	総括と展望
16	

2021年度シラバス

科目名:保育内容特論VI	担当者:鈴木 裕子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育内容（特に身体表現や身体活動，感性と表現）や乳幼児の発達を論じるにあたり自明の前提とされてきた思考の枠組や方法論を検証し，保育内容を保育内容学として成立させるための可能性や課題を探る。そのために，本授業では保育内容の研究方法論を中心に学修する。

授業の到達目標
研究論文のレビューによって，研究的な視点から分析・考察を行うことを通して，保育内容の分析や考案をする際に必要な研究的な観点や方法を理解する。保育実践と保育研究の推進者として新しい課題を探求する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
文献のレビューと，授業内容のフィードバックを通して，理解を補い深めてほしい。

評価方法
文献レビューと発表60%，討論への参加40%

教科書	参考図書
特に指定しない	受講者の関心，背景を考慮し随時紹介し内容の充実を図る。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実践者，研究者の別を問わず，問題意識を共有できるように臨んでほしい。

01	オリエンテーション：課題設定
02	保育内容を研究へと焦点化する：研究倫理の問題・内部者・実践者による研究
03	保育内容における質的研究：事例研究：事例とは
04	保育内容における質的研究：事例研究：事例を書く
05	保育内容における質的研究：事例研究：事例を省察する
06	保育内容における質的データの分析とまとめ方：コード化，概念，カテゴリー
07	保育内容における質的データの分析とまとめ方：KJ法
08	保育内容における質的データの分析とまとめ方：M-GTA
09	保育内容における質的データの分析とまとめ方：SCAT
10	保育内容における量的研究：統計と処理の基礎的な理解
11	保育内容における量的研究：平均の差
12	保育内容における量的研究：分散分析
13	保育内容における量的研究：因子分析，尺度開発
14	保育内容における混合研究（質的研究と量的研究の融合）：テキストマイニング
15	保育内容における混合研究（質的研究と量的研究の融合）
16	